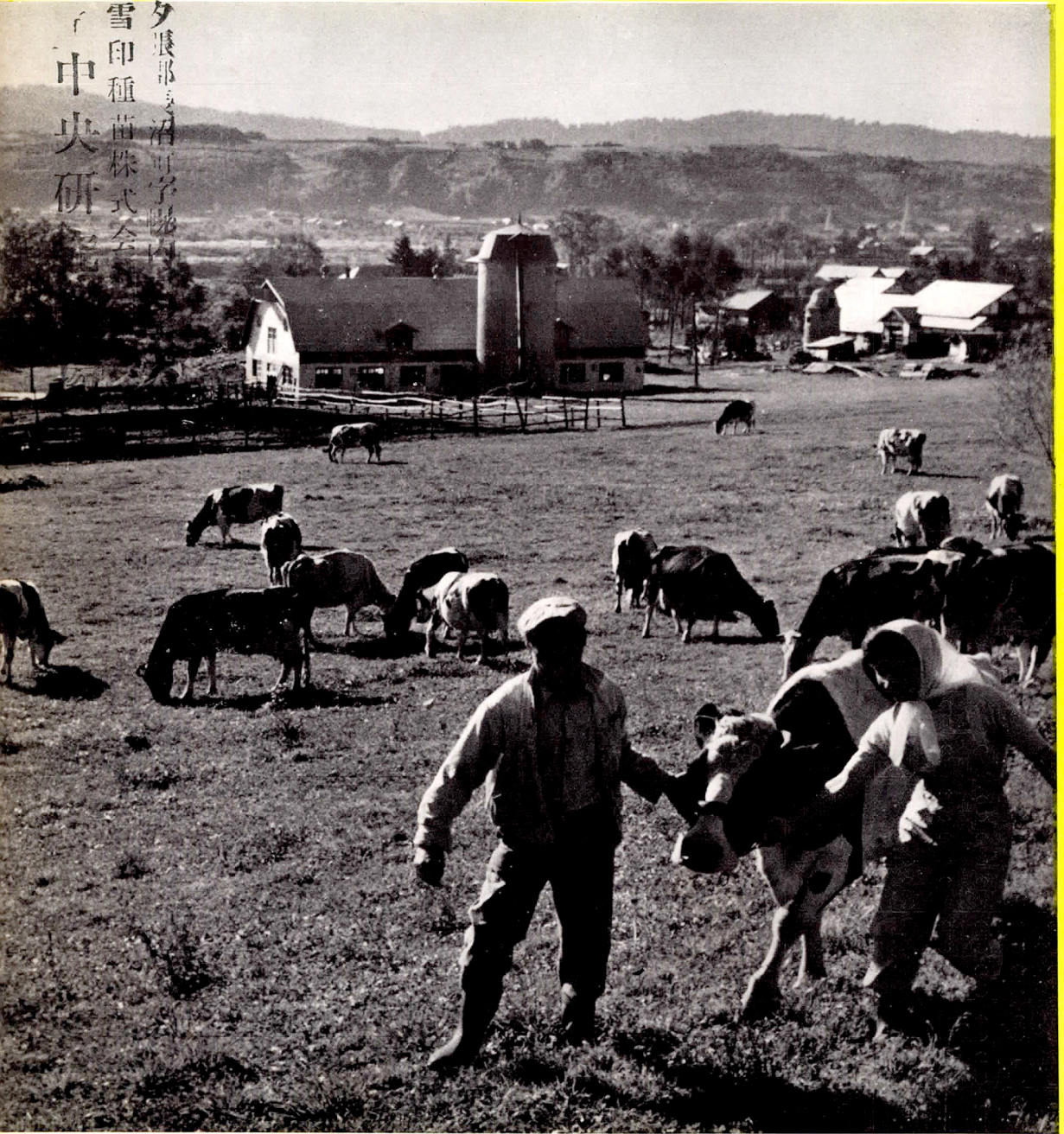


# 牧草園藝

夕張郡 沼可字 陽内  
雪印種苗株式會社  
中央研究所



雪印種苗株式會社

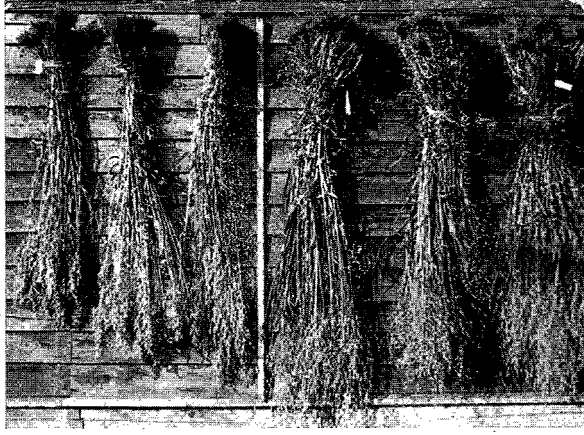
雪印が  
お奨めする  
育成選抜品種の解説

青刈燕麦(太豊、豊葉、一〇一号)

(一) 育成の目的

年々栽培面積の増加している青刈燕麦は実取用品種の「前進」「ビクトリー」号」等を利用してゐるために、

- 分蘖少なく青刈収量が少ない。
- 再生力弱く、二〜三度刈りが出来ない。
- 生葉の着生が少ない(蛋白質含量少)。
- 暖地の秋まきでは耐寒性が弱い。等々



左より前進、ビクトリー、スワロフステール、太豊、101号、豊葉

幾つかの改良すべき点があった。そこでこれらの点を改良し青刈専用品種を育成または選抜しようとした。

(二) 育成経過

(イ) 太豊(タイホウ)、豊葉(ホウヨウ) いずれも交配育種によつたもので太豊は(♀R六六二〇)豊葉は(♀R六六二〇)により、(♂R六六二〇)により、(♀R六六二〇)により、(♂R六六二〇)により、初期世代の選抜は春まきは上野幌育種場、秋まきは千葉農場で行ない、昭和三五年全国一地域において適応性の調査を終え優良品種として発売開始。

(ロ) 雪印一〇一号

青刈燕麦新品種特性概要表

品種名	特性			調査			取量調査(10a当り)																																											
	草丈	三〇種開葉数	稈の太さ	草姿	耐寒性	二番刈生長点の高さ	葉重割合	北海道千歳	秋田	岩手	宮城	福島	茨城	栃木	群馬	山梨	長野	新潟	富山	石川	福井	岐阜	愛知	三重	滋賀	京都	奈良	和歌山	徳島	香川	高松	愛媛	高知	福岡	佐賀	熊本	大分	鹿児島	沖縄	平均	地域									
前進	三七	三六	六三	六三	弱	四八	六六	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)							
ビクトリー	三七	三六	六三	六三	弱	四八	六六	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)					
一〇一	三七	三六	六三	六三	弱	四八	六六	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)			
雪印	三七	三六	六三	六三	弱	四八	六六	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)		
太豊	三七	三六	六三	六三	弱	四八	六六	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	
豊葉	三七	三六	六三	六三	弱	四八	六六	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)	(100)

備考 取量調査中(春)(秋)は春播き、秋播きの別を示す。

昭和一一年北海道農試がソ連レニングラードより導入、品種保存中の「R六六二〇」の分譲をうけ分系育種(主として採種量の高いもの)によつたもので、昭和二九年より発売開始。

(三) 特性概要と利用上の注意(表参照)

(イ) 太豊、前進、ビクトリー二号に比し、伸長、多蘖型の品種で、有効茎率も高く葉は大きく、葉重比も高く耐寒性に富み(関東以西の秋播安全) 出穂期は五〜七日遅いが多収品種。

利用の場合は暖地秋まき寒冷地(東北以北)は春まきの一度刈の青刈及びサイレージ用として適当。

(ロ) 豊葉 稚苗時は匍匐型で、前進、ビクトリー一号に比し極めて多蘖、草丈は同程度、生葉数多く、耐寒性に頗る富み、生長点低く、(四)〜八刈、二〜三度刈に適す、出穂期は前進に比し約二週間晩い多収品種、利用については東北(岩手県中央部)

生育初期の草姿 左 太豊(直立) 右 豊葉(匍匐)、雪印一〇一号も豊葉に類似  
以南の秋まき栽培で、二〜三度刈り用、また寒冷地では春まきし青刈の長期連続給与に利用して有利。  
(ハ) 雪印一〇一号  
豊葉に比し更に四〜五日の晩生種でその他の特性は大体豊葉に類似しているが、分程が軟かく倒伏し易い傾向にあるので、利用に当つては早刈りがよい。

